



KGRI設立シンポジウムでの筆者による挨拶
(2016年12月)

FRONTIER

教育・研究の最前線

はじめまして、KGRIです。

慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート所長／常任理事

こまむらけいご
駒村圭吾

昨年11月、慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート (Keio University Global Research Institute) が設立されました。通称はKGRIで、ケイジーアールアイという人もいますし、ケイグリという人もいます。通称で呼ばれることそれ自体に意味があるので、どちらでもウェルカムです。え、聞いたことがない？では紹介させていただきます。

申し遅れましたが、このたびKGRI初代所長に任命された駒村圭吾と申します。私の本籍は法学部ですが、KGRIはキャンパスや部門を超えた全塾的組織です。もともと、超えるのはキャンパスや部門だけではなく、学問の専門性も超えたいと思っています。さらに、日本語の壁も超えて英語による成果発信を旨としています。既存の枠や境界を超える試み、つまり、国際 (international)、学際 (interdisciplinary)、部門横断 (cross-departmental) 的な試みが、総合的に問われるのが、グローバル化の時代だからです。2014年に文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援に採択される前後で、慶應義塾大学

は、高等教育機関であるだけでなく卓越した研究大学としても引き続き歩み続ける将来方針を固めました。義塾の研究を、長寿 (Longevity)、安全 (Security)、創造 (Creativity) の3クラスターに分類し、その下に多彩な研究プロジェクトを配置しました。長寿ひとつとっても、例えば、iPS細胞をはじめとする再生医療技術、それを制度化するための医療政策や社会保障、長命であることの意味を再問する幸福学など諸学の連携が不可欠です。KGRIはこの3クラスターの研究を支援し、その成果を可視化 (つまり広報) するためのプラットフォームを目指します。

とは言え、領域横断、文理融合は、言うは易く行うは難しの代表例。即効的なソリューションはありません。ですので、まずはお互い、絵空事でも夢物語でもいいから、自由に学問の未来、慶應の将来を語り合う場としてKGRIを活用していただくことから始めたいと思います。現実に歩調を合わせるのではなく、現実を追いついてきてもらおう、そんな気構えでいますので、今後ともよろしくお願いいたします。